

Fontaine

vol. 50

発行日 2016年1月15日

発行/岸和田文化事業協会

〒596-0073 岸和田市岸城町5-10
岸和田市立自泉会館内

TEL/FAX 072-437-3801

Email:fontaine@sensyu.ne.jp

http://www2.sensyu.ne.jp/fontaine/

日本の桜談義

日本画家・関西伝統芸能推進協議会 事務局長 杉谷 浩



桜は薄墨色で他の花のように自己主張をしない。外部の光によって様々に変化する。将に日本人好みの花木である。

暖房設備の乏しかった日本の住居では春を待つことは、今以上に強かった。日本の文化の源流の近畿地方では春の訪れを告げたのは山の桜であった。桜の開花によって自然は一斉に躍動した。それは農作業の開始を告げる木であった。

奈良平城京は本格的な都市として大規模な造営をしたが、これに伴って多くの森林が伐採された。しかし、桜はこれらの伐採後の地にもっとも早く生育し、周囲の山は桜でおおわれることになった。都が平安京に移ると周囲には桜はなかった。人々は桜を懐かしみ、山から桜を屋敷や庭に移植して楽しんだ。そして栽培するようになった。

この傾向は時代を経てもますます盛んになり、江戸時代後半には頂点に達し、競って新品種を開発することとなる。江戸の桜の名所は元禄時代には上野であったが、八代将軍吉宗は飛鳥山に桜の苗木を計画的に植え桜の名所をつくった。また京の醍醐、大坂の桜宮、天満天神も名所として賑わった。

この時代は園芸が盛んで朝顔などはブームとなっていた。同じように桜も新種が開発され種類は250を超えていた。新しく開発し栽培した品種の桜は、花は豪華であるが植物としては非常に弱く寿命が短い。また、クローン植物であるが故に交配ができず、増殖は挿し木、接木などで苗木をとって植えることだった。そのまま放置しておけば栽培品種は消滅してしまう。

明治になって、高木孫右衛門、清水謙吾らにより、東京荒川堤に栽培品種（約70種）を集めて保護栽培していたが、二次大戦後殆どなくなった。戦後はソメイヨシノの植樹が各地で行われ、全国いたる所で桜の名所として賑わっている。

桜の語源についてはいくつかの説がある。

その一つに、古事記に登場する「木花開耶姫」（このはなさくやひめ）のさくやが転化したものだという説がある。また、さくらの「さ」は穀霊（穀物の霊）を表す古語で、「くら」は神霊が鎮座する場所を意味し、「さくら」で穀物の霊が集まる依代（よりしろ）を表すという説がある。桜の開花が農作業の目安の一つになっていたことから、人々が桜に実りの神が宿ると考えたと思われる。いずれも決定的なものとは言えない。

ひさかたの光のどけき春の日に

しづ心なく花ぞ散るらむ 紀友則

風流事を称して「花鳥風月」というが、平安時代以後の日本において単に「花」といえば桜のことを指すようになった。その後の和歌にも桜を詠んだものは多い。中でも特に平安時代の西行法師が、月と花（桜）を愛したことは有名である。彼は吉野の桜を多く歌にしており、その中でも次の歌は有名である。

願はくは花の下にて春死なん

そのきさらぎの望月のころ 西行法師

ぱっと花を咲かせた後、散ってゆく桜の儚さや潔さが非常に好まれている。

古くから桜は諸行無常といった感覚にたとえられており、ぱっと咲き、さっと散る姿ははかない人生を投影する対象となった。

在野の民俗学者

鈴木 東一



学校教育と民俗資料収集・活用に取り組む

鈴木東一^{とういち}氏は、ここ和泉における郷土史・民俗学を学校教育との関わりに於いて考察しようと試みた最初の人であり、またそれを推し進めた第一人者である。

彼の出自は、泉北郡南横山村大字父鬼である。明治41（1908）年、医師鈴木喜一氏の六男として生まれる。その頃の父鬼は「民俗探訪記・和泉山村父鬼」にくわしい。

昭和55年4月10日の読売新聞が『岸和田市文化財保護委員“東一さん”死去 民俗史に業績を残して』の見出しで訃報を伝えている。この多大な業績は、『民間伝承』『口承文学』『大阪民俗談話会会報』『近畿民俗』などに掲載されている。

東一氏は、昭和9年、近畿民具学会初代会長小谷方明氏、池田小学校教諭（後に武蔵野美術大学教授）宮本常一氏とともに、「大阪民俗談話会の発足」に携わり、以後本格的に民俗探訪に出かけ、民俗研究誌『口承文学』や『民間伝承』などに盛んに探訪録を投稿している。

東一氏は天王寺師範学校時代から植物民俗に興味を持ち、昭和12年大阪の懐徳堂で開催された日本民俗講習会で、「植物民俗の採集」について講義をしている。概要は「植物民俗」の研究には二つの方法があり、「一つはある植物を中心にみて行く方法と、もう一つは、民俗に現われる植物を調査していく方法がある」と述べている。また植物とその呼び名の問題、植物を利用した子どもの遊びなどについても話が及んでいる。

この講義は昭和12年で、当時すでに東一氏の中にきっちりとした植物民俗の研究視点が構築され

ていたのがわかる。また「植物を利用した子どもの遊びやその唱え方が植物の名になったものが多い。さらに見て行くとその彼方には深い信仰があったのでは」と考えていたのである。

また一方『くらしの綴り方』を民俗学の視点から考えようとしていた。

昭和11年、勤務する泉北郡大津第一尋常小学校において「子どもの綴り方」として『くらし』と題する冊子を作成し『民間伝承』に紹介。同誌において「生徒自身がその周囲の生活について反省し考えさせることが目的とするものの如くである。田植えや俗信の記事には資料として棄てがたいものがある」と評価されている。（民間伝承3-4 昭和12年12月 謄写版印刷）

『くらしの綴り方』は、学校教育と民俗学のつながりを模索しようとしたものであったといえる。その視点から編纂されたものが『やまだい風土記』第1・2集（岸和田市立山直北小学校にて刊行）である。



やまだい風土記

さらに偉大な貢献は、岸和田市文化財保護専門委員として、その発掘、保存に精力的に取り組み、その成果を『岸和田の文化財』Ⅱとして編集・発刊していることであり、また昭和44年郷土資料館開館の準備にあたっては、郷土の民具資料収集・保存・展示に取り組み功績を残していることである。

山直民俗談話会の発足に当たり、「郷土を愛し、自らの郷土に伝承されている民俗資料を郷土人自身の力を以って、安心して使えるような精確な採集記録として残す」ことを力説された。

結びに、東一氏が発足に尽力され、米谷金治郎氏が育んだ「山直民俗談話会」を引き継ぐものとして、この灯を消すことなく次世代へつなげ、東一氏のご恩に報いなければならないと思うものである。

参考文献

『忍冬—鈴木東一先生遺稿集—』『大阪民俗談話会会報』『近畿民俗』『民間伝承』『口承文学の会』例会記録

申年に梅と桃の話をも申す。

岸和田文化事業協会 会長

松本 則子



今年の干支は「申」で「申す」という言葉ですね。「言う」の丁寧語とか尊敬語です。その申年に漬けた梅を食べると健康にいいそうです。話はぐっと遡り平安時代まで行きます。村上天皇が申年に漬けた梅と昆布茶で病気を直したという事から申年の梅は体にいいと言われているそうです。紀州のみなべにある老舗の梅干し屋さんでは申し込みを受け付けているらしいです。

なぜ「申年の梅」の話を知ったのかというと、包近の桃からスタートします。昨年暮、岸和田文化事業協会の自主事業でオペラを作るという夢の実現に向かって走り始めました。その作品のタイトルが「桃と赤鬼」です。序奏としては成功だったと自画自賛しています。お正月やからお目出度いのは許してください。

包近に別嬪の娘がいて鬼が嫁取りにくる。この鬼を追い払うにはここを桃の里にしたらいいと、娘に惚れている若者が紀州へ桃の苗を取りに行くという話です。これは岸和田市制70周年記念に刊行された「岸和田のむかし話」に載っている足立俊さんが書かれたお話をもとに脚色しました。

脚本にしている時から桃やのになんで紀州やねんと、口にすると天に唾するのでひそかに思っていました。

「桃と赤鬼」の製作を続けるには岸和田文化事業協会が自泉会館の指定管理を続けられるかどうかにかかっています。指定管理者の期限は今年度までなので、「桃と赤鬼」の運命やいかにもやもやしていたら、無事に管理者として認定していただきました。

ではオペラ完成にむけて進もうと思いき、紀州は梅なのに桃の苗とりに行くとはこれいかにと調べていて、申年の梅は健康にいいという話に行きあたった次第です。

12年に一度しか回ってこないのに、なぜか不思議と申年は梅の不作が多いそうです。古来から申年は天変地異があって梅が不作になり、希少価値が生じ、ますます申年の梅に拍車がかかっていると書いてありました。

おっと、失礼しました。紀州の桃に戻ります。桃の生産地は桃太郎の岡山と思いきや、和歌山はその岡山を引き離して全国桃の生産の4位でした。1位は山梨ですが山梨まで行っていたら話は大変だし、和歌山は4位だしいいじゃない。それより包近の桃は甘さでは断トツの1位でした。年の初めの話としては明るく収まりました。

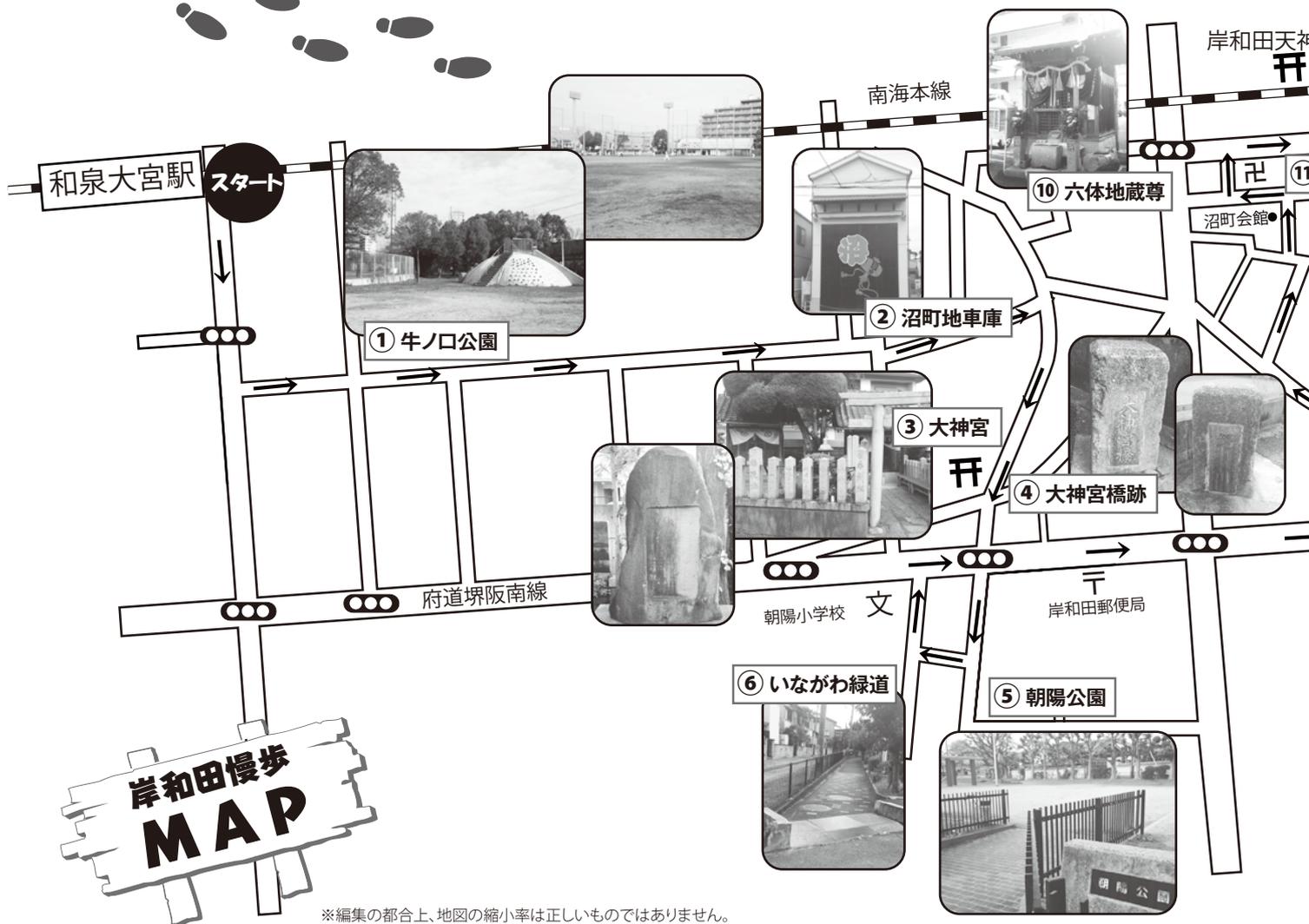
自泉会館の指定管理者として、1年目のスタートです。岸和田の文化活動の拠点として、面白いこと楽しいこといっぱいしたいですね。

歩いて岸和田のよさを知る

岸和田慢歩

第20回

「和泉大宮駅から沼町を抜けて岸和田駅へ」



※編集の都合上、地図の縮小率は正しいものではありません。
国土地理院発行やネットなどの正式な地図と照らし合わせて、
散策することをおすすめします。

①牛ノ口公園

中央に島のあった「牛之口池」というため池を、埋め立てて造成された公園。併設された「牛ノ口運動広場」はナイター設備もあるグラウンドで、多くの草野球愛好者に利用されている。

②沼町地車庫

岸和田天神宮宮入一番の特権を有している沼町のだんじりは、平成14(2002)年に新調。彫物の図案を源平合戦で統一しているのが特徴で、明治34(1901)年に製作された先代だんじりは、現在、岸和田だんじり会館に展示されている。

③大神宮

南北朝時代の応永年間(1400年前後)、和田氏の家臣である沼間伊賀守正信が大内氏との戦いに敗れて戦死した後、村人がこの地に埋葬したと伝えられ、その伝説を刻んだ石碑が建立されている。また、大神宮の隣に祀られている不動尊は、昭和20(1945)年の道路拡張工事で浄光寺の裏手に移され、さらに昭和53(1978)年に現在の場所に移転された。

④大神宮橋跡

大神宮の境内前にある橋柱。昭和50年ころまで、この辺りには「鱧(いな)川」が流れていて、そこに架かっていた橋の名残。現在、鱧川は暗渠化されている。

⑤朝陽公園

岸和田沼野村尋常小学校(現・朝陽小学校)が建てられていた跡地。開校は明治35(1902)年で、大正7(1918)年に現在場所に移転。なお、小学校の向かいには、明治45(1912)年に当時の岸和田町に合併されるまで、沼野村の村役場が設けられていた。

⑥いながわ緑道

朝陽小学校の横の緑道。この場所は鱧川を暗渠にした跡地に設けられ、かつては川に沿って、レンガの材料となる粘土を運ぶトロッコ道があった。

⑦筋海町地車庫

筋海町のだんじりは、昭和8(1933)年に製作され、宮入では沼町に続く「天二番」の特権を有する。なお、かつては筋違町、瓦屋敷、餌差町の3字に分かれていたが、大正2(1913)年に合併して現在に至る。

⑧夫婦淵祠

旧筋海町会館横の路地を入った奥にある祠。かつてこの付近は「菊右衛門川」の流れる湿地で、夫婦淵という小字名があった。その夫婦淵に暮らしていた人が、病弱な子どものために「巴さん」(蛇神)を祀ったのがはじまるとされる。なお、菊右衛門川も鱧川同様、暗渠化されている。

⑨不動尊祠

富田林市にある滝谷不動尊を勧請した祠。足の病気にご利益があるという。

⑩六体地藏尊

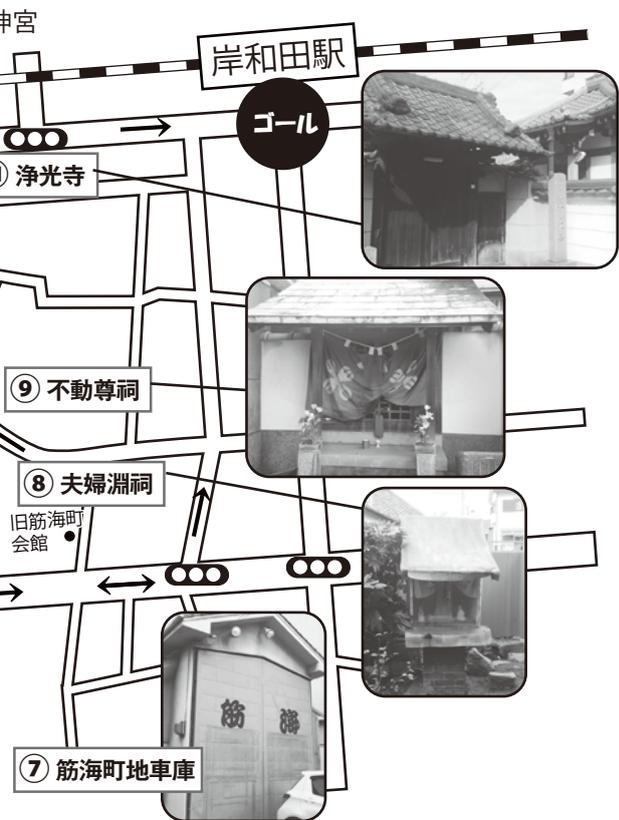
浄光寺の北隣に祀られた6体の地藏尊。沼町内に点在していた地藏像を集めたものとされている。

⑪浄光寺

阿弥陀如来を本尊とする浄土宗の寺院。開山の時期は不詳だが、元禄8(1695)年ころの僧・厭誉上人によって開かれたとの説もある。

「沼」という地名が文書に記された初見は、平安時代末期のこと。平治2(1160)年に鳥羽天皇の第三皇女である八条院暲子内親王の所領として、「和泉国沼間荘」という荘園名が見えます。また、南北朝時代の記録には「沼間氏」「沼氏」といった姓名も見え、文禄3(1594)年の「太閤検地」では現在の沼町・筋海町・並松町・藤井町・別所町と北町や上野町の一部が「加守郷沼村」となっています。このように、城下町界隈のすぐ近くにありながら、異なった歴史を刻んできた沼町近辺を、今回は散策してみましょう。

理事 黒 犬 猛 夫



距離は短く、高低差もなく、幹線道路には歩道が整備されているので、安全かつ楽な行程です。お散歩がてらには、うつつけのコースといえるでしょう。

元の場所に戻って山側に歩き、広い道を左に曲がって大阪方面に進み、7階建てのマンションの角を右に曲がると「不動尊祠」。真っ直ぐ歩いて突き当りを左に折れ、沼町会館の前を右に曲がり、突き当りを左に曲がってすぐの角を右に折れ、しばらく進むと「六体地藏」の祠があり、右手には「浄光寺」があります。そのまま、南海線に沿った道を右に曲がって進むと岸和田駅に到着です。

海側に進路をとり、府道堺阪南線(旧国道26号線)の信号を渡れば左側に「朝陽公園」。公園に沿った道を右に曲がれば、朝陽小学校の横に鱈(いな)川の跡地に設けられた「いながわ緑道」が山側に向かって伸びています。

緑道を歩いて旧国道の歩道を右に曲がり、郵便局の前を通って沼町交差点を渡り、直進すると右手の路地の奥に「筋海町地車庫」が見えてきます。そのまま旧国道に沿って歩き、筋海町交差点を山側に渡って大阪方向に戻り、機械工具店の角を右に曲がると「筋海」の崩し文字と梅鉢紋が門扉に書かれた旧筋海町会館があり、すぐ山側の路地を左に曲がった突き当たりに「夫婦淵祠」が祀られています。

スタートは南海線泉大宮駅から。駅を降りてすぐの道を海側に歩き、信号を過ぎた角を左に曲がると「牛ノ口公園」が見えてきます。そのまま道なりに進むと「沼町地車庫」が建っていて、地車庫の前を通り、突き当りを右に折れば「大神宮」。境内の前の交差点には「大神宮橋」の橋柱が残されています。

スタートは南海線泉大宮駅から。駅を降りてすぐの道を海側に歩き、信号を過ぎた角を左に曲がると「牛ノ口公園」が見えてきます。そのまま道なりに進むと「沼町地車庫」が建っていて、地車庫の前を通り、突き当りを右に折れば「大神宮」。境内の前の交差点には「大神宮橋」の橋柱が残されています。

岸和田 あ・ら・か・る・と

『岸和田弁歳時記』 「としこし」(節分)

理事 藤田 保平

さあ、豆炒れたど。炮烙^{ほうらく}①をカンテキ^{かんてき}②から下ろして、半紙を家のもんの数、並べてくれ。それへ、数え年より一ツ余計に豆、勘定^{でけ}してくれ。出来たか？

出来たら四角つまんでおひねりにしてくれ。宮さんへ上げるんや。残りは枳^{ます}③に入れて、家の神さん棚へ上げといてくれ。晩に「鬼は外」やるさかい。

何で「としこし」が二遍あるんやてかえ。そらねエ。一遍は暦の上で年が変わるんで、大晦日から元旦への「としこし」や。二月三日は冬から春への「としこし」ちゃ。別に節分とも云うやろわ。季節が変わるよ、て云うことぢや。そやさかい節分は年に四回有るんや。立春・立夏・立秋・立冬の前の日のこっちゃ。夏・秋・冬は別にこれと云うて何もせえへん

けど、春は格別ぢや。この日の夕暮に柊^{ひいらぎ}④の枝に鯛の頭を刺して、鬼やら災厄が入って来んよに「目エ突こ鼻突こ嚙みつくだ」てね門口^{かどぐち}⑤い差しとくんぢや。ほんで、夜寝る前に大戸^{おほい}⑥を閉める時に「鬼は外、福は内」てオガッて⑦、家の神棚へ供えちゃった枳の豆を撒くんぢや。もうこれもキツチリやる家が少のうなったらしいのう……。

- 〈注〉
- ① 素焼きの皿状の調理器。
 - ② 七輪
 - ③ 木製の方形の分量を計る器。五合枳、一斗枳。
 - ④ モクセイ科の常緑小高木。葉は革質で光沢あり。葉の縁には先が鋭いトゲ状の切れ込みがある。
 - ⑤ 玄関口
 - ⑥ 玄関
 - ⑦ 叫ぶ

宿泊研修の報告

城崎国際アートセンターと 出石永楽館

理事 本郷 元子



城崎国際アートセンター



出石永楽館

平成27年11月15～16日、文化事業協会の宿泊研修、豊岡市の城崎国際アートセンターと出石永楽館の見学に参加しました。

初日は城崎アートセンターの見学です。城崎温泉街の最も山合に近いところに、元は兵庫県立の城崎大会議館であった施設を改め、2014年に舞台芸術に特化したアーティスト・イン・レジデンス（滞在型の創造活動を行う拠点施設）としてスタートした施設です。1つの大ホール、6つのスタジオ、22名の宿泊が可能な施設からなっています。

この施設の利用法は、1年に1～2回ある公募に願し、選考委員会及びアートセンターのスタッフによる選考を受けます。選考されれば、3日～3ヶ月間の滞在が可能でその間の宿泊費、ホール、スタジオの使用料は無料。24時間自由に活動出来ます。アートセンターが目指すのは、「創造を中心とした壮大な稽古場」。作品を発表するもよし、完成せよという縛りもありません。滞在中に地元の学校へ出前教授したり、ホールで公演したり、トークを行ったり様々な活動が行われているそうです。

古くから文筆家や芸術家を多く迎え入れ歓待し世に送り出して来た城崎ならではの、地元で溶け込んでの活動がごく当たり前の雰囲気は、創造者にとって何より嬉しいものと思われまます。活動のみではなく、城崎町民と同額100円で温泉を利用でき、疲れを癒せる！なんと羨ましい創造環境！！

ですから選考は大変“狭き門”だそうです。

ちょうど行われていた大ホールでのリハーサルも見学しました。舞台は間口12.6m×奥行7.2m×高

さ60cm。500席の可動式の客席は平土間舞台（1000名収容可能）など様々な演出に対応出来ます。どのようにも使える、この自由さ。貴重な創作の場の更なる発展を期待します。

さて、2日目は出石町の100年を超える歴史を持つ劇場「永楽館」。

1901年出石で代々染物を商ってきた小幡家の11代当主久次郎により建設されました。上方歌舞伎、剣劇、落語の他、反戦演説で有名な斎藤隆夫の講演や宝塚劇団の公演などもされましたが、1963年頃から劇場としての使用はされなくなり、程なく閉鎖されました。1989年から「出石城下町を活かす会」により使用が再開されて再生の機運高まり1998年出石町の文化財指定を受け、2006年から創建時への復元工事開始、2008年夏完工して8月、6代目片岡愛之助の座頭による柿落し公演が行われました。

一步踏み込むと「わあ、懐かしい」と思わず声が出ます。木造、土壁、マス席、歩きなどに加え、両側の壁に掛かる古い商家のポスター、楽屋には往年の役者さんたちのサインがたくさん残っています。奈落に下りて、直径6.6mの回り舞台、スッポン、セリなどの舞台機構も見学。2階客席にも上り、隅々まで見て回りました。まさに「芝居小屋」が息づいています。

現在、劇場としての使用頻度は高く、また見学者も引きも切らずの様子を目の当たりにして、当たり前の人々の生活に溶け込んでいる芝居小屋の存在を素晴らしいと感じ入りました。素晴らしい研修旅行でした。

Event Report

アンケートからの抜粋

協会主催の事業にご来場いただき、有難うございました。
アンケートにご協力いただいた方の感想を紹介させていただきます。

第45回自泉フレッシュコンサート

平成27年10月16日(金) 午後6時30分～

岸和田文化事業協会では、音楽を学び、プロフェッショナルとして歩み始める新人演奏家に、演奏の場と技術を磨く機会を提供しています。今回は、ユーフォニアムとフルートの初々しいお二人の演奏でした。



〈皆さんの声〉

- ◆こんな身近な所で、アットホームな演奏会を企画運営される岸和田って素敵などころですね。若い演奏家の発表の場があり、素人の私達が来られるような音楽が身近にある感じがいいですね。
- ◆ユーフォニアムは初めて聴きました。とても雄大ですばらしかった。原っぱで聴いてみたいです。
- ◆光と風の中で揺れる色とりどりの花々、元気のよい小さな動物たちの軽やかな動きなど映画館の大スクリーンで見ているような感動がありました。



杉江能楽堂 茂山狂言の夕べ

平成27年10月21日(水) 午後7時～

従来の「能楽」に変えて、今回は「狂言」を行いました。多くの方々が、杉江能楽堂で伝統芸能を気楽に鑑賞していました。

〈皆さんの声〉

- ◆はじめて生で狂言を拝見させていただきました。はじめに、能楽、狂言についての詳しいお話をうかがえて、その後の舞台を楽しく拝見できました。
- ◆解説が解りやすく、参考になりました。狂言の見方が、より深まりました。日本文化を大切に楽しんでいくことが、今こそ大事だと思います。
- ◆生まれも育ちも岸和田ですが、杉江能楽堂を初めて知りました。このような場所での狂言の上演、とてもよいと思います。文化を大切にする岸和田市、自慢です。

ウインズ WINDSトーク&ミニLIVE

平成27年11月8日(日) 午後2時～

世代を超えた音楽からカラオケ配信曲も多いウインズのメンバーから平阪・亀岡両氏を迎え、トークを交えた2時間のライブに100人近い方が楽しんでいました。



〈皆さんの声〉

- ◆自泉会館は初めてですが、音響効果最高でした。または非とも寄せて頂きます。
- ◆音楽を通して地元を盛り上げていこうと力を尽くされてきた、ウインズさんは本当に素敵です。
- ◆母が入院中で、忙しい毎日を送っています。良い一日ありがとうございました。
- ◆遠方からチケットを購入するための手段が少なく不便に思いましたが、電話では親切に対応してくださりました。

苔テラリウムを作ろう!

平成27年11月11日(水) 午前10時～

皆さん個性あふれる苔の世界を小さな瓶の中に描いていました。



オペレッタ 歌で綴る「桃と赤鬼」

平成27年11月27日(金) 午後6時30分～

包近の桃にまつわる岸和田の伝承民話を題材にしたオペレッタを演奏会形式で行いました。わかりやすい内容とユニークなキャスト、圧倒される歌唱力に皆さん満足の様子でした。岸和田文化事業協会が初めて取り組んだ分野の事業でした。



〈皆さんの声〉

- ◆岸和田でこんなに素晴らしいオペレッタを観られることをうれしく思います。楽しそうに演じてくれて、鬼さんもユニーク。一緒に歌いたいと思いました。
- ◆期待以上でおもしろかった。皆様いいお声で、演技も達者で！ 完成が楽しみです。
- ◆とても楽しい内容でした。キャストの方がそれぞれ魅力的で良かったです。また、こういう催しを期待しています。
- ◆とても声がよくでていて、きれいなハーモニーでした。オペラになることを楽しみにしています。もっとたくさんの方に観てもらいたかったです。

第46回自泉フレッシュコンサート

平成27年12月4日(金) 午後6時30分～

泉州出身あるいは在住のフレッシュなお二人。アットホームなコンサートに会場はうっとりしていました。



〈皆さんの声〉

- ◆初めてこの会館に来ました。こんなステキな空間ですばらしい演奏を聴くことができ、幸せでした。また、チャンスがあれば他のコンサートも聴きたいです。
- ◆情感たっぷり。お人柄のじみ出た笑顔と分かりやすい解説。幸せな時間を頂きました。感謝！
- ◆地元出身の特に若い世代の演奏家を中心とした、このようなコンサートを長年、企画主催されています関係の皆様に敬意を表します。

会員展

平成27年12月4日(金)～6日(日)

午前9時30分～午後5時

(最終日のみ午後4時まで)



会員による素敵な作品展示と5つのワークショップを行いました。

岸和田文化事業協会の事業 Information

新春 邦楽コンサート

箏・尺八の響 和洋融合

日時:平成28年1月29日(金)午後7時開演

会場:岸和田市立自泉会館ホール

出演者:折本 大人樹(箏・十七絃・歌) 石田 知子(ヴァイオリン)
植野 由美子(箏・歌) 品川 明子(オーボエ)
小林 鈴純(尺八) 宮前 勝代(ピアノ)
谷 保範(尺八) 角野 芳子(ソプラノ)
島袋 羊太(テノール)

入場料:前売 2,000円(当日500円増)

第8回フレッシュ プレミアムコンサート

最優秀賞受賞記念

原由莉子ピアノリサイタル

～ウィーンの薫りとリストのピアノリズム～

日時:平成28年2月14日(日)午後2時開演

会場:岸和田市立自泉会館ホール

入場料:前売 1,000円

第9回フレッシュプレミアムコンサート

～未来へここから～

平成27年度自泉フレッシュコンサート出演者の中から推薦された方々によるコンサート

日時:平成28年3月19日(土)午後5時開演

会場:マドカホール(岸和田市立文化会館)

入場料:前売 1,000円(当日各200円増)

出演者:加藤 真由子(ソプラノ)
森田 美穂(クラリネット)
村瀬 昌恵(ピアノ)
浅田 翔平(ユーフォニアム)
中谷 恵(フルート)
星川 響子(ピアノ)
廣中 愛(ソプラノ)

第5回

自泉ジュニア コンサート

オーディションで選ばれた
小学生～高校生によるコンサート

日時:平成28年3月6日(日)

午後2時開演

会場:岸和田市立自泉会館ホール

入場料:無料(当日先着100名まで)

■お問い合わせ 岸和田文化事業協会事務局まで TEL/FAX 072-437-3801 Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

文化 情報

第30回 隗展

日時:H28年2月4日(木)～2月7日(日)

午前10時～午後5時

会場:岸和田市立文化会館(マドカホール)

入場料:無料

主催:岸和田美術の会

問合せ:TEL:072-422-2588(赤井)

文化 情報

梨生・滋青二人展 傘寿記念

日時:H28年3月26日(土)～3月27日(日)

午前10時～午後5時(27日のみ午後4時まで)

会場:岸和田市立自泉会館展示室

入場料:無料

主催:梨生・滋青二人展実行委員会

問合せ:TEL:072-423-1013(齊藤)

nouvelle Fontaine vol.50

発行:岸和田文化事業協会

発行日:2016年1月15日

◆事務局
〒596-0073
岸和田市岸城町5-10 岸和田市立自泉会館内
TEL/FAX 072-437-3801
Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

◆編集委員 本郷元子・黒木幸子・小島栄子
齒黒猛夫・藤田保平・堀野和人

編集後記...

あけましておめでとうございます。

昨年、協会会員にお誘いいただき、それならば少しでも早く文化事業協会の活動の内容を知ろうと厚かましくも、広報部会に参加させて頂きました。まだまだ戦力には程遠く申し訳なく思いますが、紙面作成を通して多くの皆様と知り合えた事を嬉しく感じています。

私自身、建築設計事務所を経営する傍ら、協会活動の一端に触れる事で、自らの感性も幅広く磨き、「岸和田市の素敵な景観の継承と創造」に、少しでもお役に立ちできるように尽力せねばと、自分自身に大なる期待ができる新年となりました。(堀野)

<http://www.2sensyu.ne.jp/fontaine/> 岸和田文化事業協会

検索